

部局名：

大学院医歯薬学総合研究科 歯学系

部局長名：

大原 直也 歯学部長・
医歯薬学総合研究科副研究科長

目標・取組	目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>大学院生のニーズに合った学修者主体の大学院教育課程を構築し、国際社会・地域社会でリーダー的な存在となる人材育成を行う。</p> <p>1) 博士課程4専攻を1専攻にし、社会のニーズと現状を反映させた歯学学位プログラムと選択プログラムの構築を推し進める。</p> <p>2) 歯科専門医制度の発足を踏まえ、歯科医療に貢献できる高度専門歯科医療人の育成のためのカリキュラムを新たな学位プログラムのもとに策定する。</p> <p>3) 高度専門歯科医療人育成のため、学部・研修医・大学院の一貫した教育システムの構築を検討する。</p> <p>4) 基礎系分野と臨床系分野が協力し、複数指導教員による指導体制の拡充を図る。</p> <p>5) 変化する社会ニーズに対応できる歯科専門医育成のため、数理・データサイエンス教育の充実を図る。</p> <p>6) 全学的国際交流プログラムに積極的に参加するなどにより、優秀な留学生の確保に努める。</p>	<p>教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p> <p>関連する年度計画の番号</p> <p>2-1-1 5-1-1 7-1-3 7-1-2</p> <p>1) 高度専門医療を求める社会のニーズと国際化・多様化が進む研究の現状を反映させた「歯学学位プログラム」と選択プログラム「ポータル歯学研究者育成プログラム」を構築し、令和5年度からの実施を実現した。</p> <p>2) 上記「歯学学位プログラム」を歯科臨床専門医の育成に特化した学位プログラムと位置づけ、「歯科臨床専門医プラクティカム」など特色ある科目を軸とした新カリキュラムを策定した。一方の「ポータル歯学研究者育成プログラム」は、留学生が英語のみで履修可能な新カリキュラムの策定を目指した。</p> <p>3) 学部から大学院までの一貫した教育を実現するために、チームアプローチによる高大連携を開始するとともに、学部生、初期研修医を対象とした連携型キャリアパス説明会を定着させ、キャリア教育プログラムのさらなる充実を図った。その結果、博士課程の2023年4月入学者において、歯学系の定員を充足した。</p> <p>4) 基礎系・臨床系教育分野の連携による大学院教育を推進し、本年度は3名の学生が2名の基礎・臨床系教授の指導のもと学位を得た。</p> <p>5) 歯学学位プログラムの選択必修科目に「医療データサイエンス」を創設し、次世代の歯科専門医育成システムを強化した。</p> <p>6) UNCTAD短期研究者受入れプログラムによりフィリピン大学の若手女性准教授を短期に受入れ、フィリピン大学からの大学院生受入れの礎を築いた。また「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」の再度の採択を得て、優秀な留学生の確保に大きく貢献した。</p>
<p>②研究領域</p> <p>研究大学としての岡山大学の構築を牽引するための施策を制定する。</p> <p>1) 歯学部先端領域研究センター(ARCOCS)の組織改編を検討し、優れた研究成果に繋げる。</p> <p>2) 科研費の高い獲得率の維持に努める。また、科研費以外の公的な外部資金の獲得に努める。</p> <p>3) 受託研究、共同研究の受入れ増加に努める。</p> <p>4) 「臨床研究中核病院」、「橋渡し研究戦略的プログラム」等のプロジェクトに、歯学系の特徴を活かして協力、参画し、積極的に基礎研究と臨床研究を推進する。</p> <p>5) 教育研究分野を超えた共用スペースの運用を始め、歯学系内の共同研究を増加させる。</p> <p>6) 歯学部棟改修に伴い、大学院生が積極的に協同して活用できるスペースを拡充することを設計に盛り込む。</p>	<p>研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p> <p>関連する年度計画の番号</p> <p>8-1-1 8-2-1 8-2-3</p> <p>1) ARCOCS組織改編の最初の一步として、新たに研究専任教員のポストを設置、優秀人材を求めて全国公募を行なった。その結果JSTの支援の下、独立して研究を進めよう人材の配置を実現し、研究基盤の増強に成功した。</p> <p>2) 科研費では高い採択率を維持し、歯学領域での科学研究費新規獲得件数は全国4位であった。今年度は基礎研究(B)で前年度を超える5件の採択を果たしたほか、基礎研究(C)では38%、若手研究では48.3%と前年度の全学平均をいずれも上回る採択率となった。</p> <p>3) 受託研究についてはCRESTに採択され(研究代表者、松本卓也教授)、AMEDを含めて7の委託者からの研究を受け入れ、受入金額総額は1億365万円に達した。また共同研究についても5件を受け入れている。</p> <p>4) AMED事業「太陽菌発現系由来rhBMP-2含有β-TCP製人工骨を用いた顎骨再生療法」、文科省事業「保健医療分野におけるAI研究開発加速に向けた人材養成産学協働プロジェクト」、岡山大学病院オープンイノベーションを拠点とした「スーパージン」構築への参画を通じた地域課題の解決と新たな産学連携オープンイノベーション体制の構築を実施し、歯学系のより広い貢献が可能となった。令和4年度は、臨床研究中核病院として歯科系の医師主導治験を2件、特定臨床研究を5件実施しており、このうち特定臨床研究の1件は、令和4年度に新規に開始したものであり、歯科系の特徴を生かして積極的に臨床研究に取り組んだ。</p> <p>5) II期にわたる歯学部棟改修のうちI期を終了し、各階に設けた「共用リサーチスペース」と「ケミストリー commons」の教育研究分野を跨いだ運用を開始した。</p> <p>6) 歯学部改修II期工事開始を前に、大学院生がポータルに情報交換ができる共用スペースとして「共用リサーチスペース」の拡大と多くの「セミナー室」を設定し、設計に盛り込んだ。</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>海外関係機関との交流や留学生の受入れ、また、地域医療機関との連携、そして地域住民へ貢献する。</p> <p>1) 国際交流プログラムへの参画、協力を推進する。派遣・受入れの拡充を目指すとともに、オンライン交流の有効活用を継続させる。</p> <p>2) リカレント教育の構築を推進し、ハイブリッド型リカレント教育を検討するなど、一層の充実を図り、収益事業としても定着させる。</p> <p>3) 地域医療機関の歯科医師等を大学院生や客員研究員等として受入れ、地域医療機関との人材交流を拡充する。</p> <p>4) 歯科医師会、同窓会、行政等との連携を拡大・強化し、地域に対する社会貢献の実施体制の発展を検討する。</p> <p>5) 歯学部棟改修に伴い、学外の研究者等が研究等に利用できるスペースの確保を具体的に計画に盛り込む。</p>	<p>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p> <p>関連する年度計画の番号</p> <p>2-1-1 6-1-1 8-1-2 10-3-1 12-2-1</p> <p>1) UNCTAD短期研究者受入れプログラムによりフィリピン大学の若手女性准教授を短期に受入れ、アジアの女性若手研究者の育成に貢献した。また、「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」の採択を得て、留学生の受入れを拡充した。また教員をハノイ医科大学、ハイフォン医科大学、ハノイビジネステクノロジー大学に派遣し受入れと派遣対象の拡充を図った。</p> <p>2) 2019年度に開始した歯学系教員によるリカレント教育も本年度4年目を迎え、収益事業として定着しつつある。今後より内容を充実させ参加者を増やすに当たり、実施組織の再編に着手した。</p> <p>3) 地域医療機関に勤務する歯科医師を、今年度は大学院生として30名、客員研究員としては27名を受入れ、研究力の増強を地域との連携の上で推進した。</p> <p>4) 岡山県歯科医師会と連携し、岡山県行政に対して障がい者歯科の推進に関する計画を協議した。岡山市歯科医師会と岡山大学の学生および教職員の健康増進に関して協働することを確認した。医科・歯科連携により、奥地の健康管理・増進のために国内外から広く患者さんを受け入れることも目的として、岡山大学病院に「お口の健康管理センター」を開設した。</p> <p>5) 歯学部棟改修工事第II期の設計に際して、学外の研究者等と交流を目的としたスペース「ソーシャル commons」そして学外者でも研究に利用できる「オープンラボラトリー」を歯学部棟に組み込み、工事に着手した。</p>
<p>④管理運営領域</p> <p>歯学部に統一</p> <p>上記①②③の達成に向けて部局運営体制を強化・活性化させる。</p> <p>1) FD・SDを充実させ、構成員における組織計画等の情報の共有をさらに高める。</p> <p>2) 歯学部教育点検・評価・改善専門委員会が主体となり、教職員と学生が一体となって教育の点検・評価・改善を行う。また、大学院歯学系においても点検・評価・改善を行うシステムの構築を検討する。</p> <p>3) 研究力増強のために、歯学部先端領域研究センター(ARCOCS)の組織改編を検討する。</p> <p>4) 社会や様々なステークホルダーとの連携を充実させる。</p> <p>5) 歯学部棟改修に伴い、海外交流のためのスペース、地域の歯科医師や様々なステークホルダーと共創するためのスペース確保を具体化する。</p> <p>6) 情報セキュリティ体制について、全ての構成員に対する教育の充実を図る。</p> <p>7) 全学のDX推進を牽引する組織体制に協力する枠組みを検討する。</p>	<p>管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p> <p>関連する年度計画の番号</p> <p>(歯学部に統一)</p> <p>1) 歯学部長と教育・研究担当歯科系副院長によるFDを行い、歯学部の方向性を構成員に周知・共有した。また岡山大学病院新医療研究開発センター教員によるFDを行い、歯学系に於いて重要な位置づけである臨床研究の具体について周知・共有した。</p> <p>2) 歯学部教育点検・評価・改善専門委員会が主体となり学生とともに教育の点検・評価し、改善すべき項目を掘り出した。また、令和5年度に大学基準協会の歯学教育評価を受審することになり、その調書と資料の作成を行うことで、歯学部全体の点検・評価を行うことができた。</p> <p>3) ARCOCSの組織改編を検討し、新たに研究専任教員のポストを設置した。全国公募を行い、独立して研究を進めよう人材の配置を実現し、研究基盤の増強に成功した。</p> <p>4) 岡山県をはじめとする行政、岡山県歯科医師会をはじめとする各歯科医師会、岡山県がん診療連携協議会歯科部会、岡山大学病院などのステークホルダーとの連携を深めた。</p> <p>5) 歯学部棟改修工事第II期の設計に際して、海外交流のための「国際歯学センター」や地域の歯科医師などと共創するための「ソーシャル commons」、そして「オープンラボラトリー」を歯学部棟に組み込み、工事に着手した。</p> <p>7) 歯学部教務委員会の下部組織にデジタル歯学教育部会を設置し、AIを専門とする自然科学領域の教授に外部顧問を委嘱した。部会での情報を共有することで、教育のデジタル化を推進している。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。